

科目名	ミクロ経済学Ⅰ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	MicroeconomicsⅠ	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	たむら ひであき	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	田村 英朗	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	価格と市場の動きは、経済学の基礎の第一歩です。焦らずにじっくりと学んでいきます。				
到達目標	経済学に必要な数学を復習しながら、ミクロ経済学の重要テーマである消費者の主体均衡理論を理解し、更に教科書的に説明できるだけではなく、計算問題にも対応できるようにする。				
授業概要	テキストに沿って解説していきます。時々、応用問題を交えて理解を深めていきます。 なお、授業における PC 活用方法について適宜、指示する場合がありますので留意して下さい。				
授業計画					
第1回	限界効用理論(1)、数学の復習 (分数(1))				
第2回	限界効用理論(2)、数学の復習 (分数(2))				
第3回	無差別効用理論(1)、数学の復習 (分数(3))				
第4回	無差別効用理論(2)、数学の復習 (分数(4))				
第5回	無差別効用理論(3)、数学の復習 (分数(5)、絶対値)				
第6回	所得の変化と消費(1)、数学の復習 (式の種類・かき方と計算ルール(1))				
第7回	所得の変化と消費(2)、数学の復習 (式の種類・かき方と計算ルール(2))				
第8回	所得の変化と消費(3)、数学の復習 (展開と因数分解(1))				
第9回	価格の変化と消費(1)、数学の復習 (展開と因数分解(2))				
第10回	価格の変化と消費(2)、数学の復習 (展開と因数分解(3))				
第11回	価格の変化と消費(3)、数学の復習 (平方完成と微分(1))				
第12回	限界効用と限界代替率の関係、数学の復習 (平方完成と微分(2))				
第13回	加重限界効用均等の法則の導出、最適消費計画				
第14回	応用：労働供給量の決定理論				
第15回	復習				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。(1時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)				
履修条件 受講のルール	テキスト(2冊)に沿って講義を進めるので、必ず購入してください。なお、適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。				
テキスト	石川 秀樹『単位が取れるミクロ経済学ノート』講談社、2009年。 石川 秀樹『経済学と数学がイッキにわかる!!』学研プラス、2021年。				
参考文献・資料	西村 和雄『現代経済学入門 ミクロ経済学(第3版)』岩波書店、2011年。				
成績評価の方法	小テスト・レポート40%、定期試験60%をおよその目安として、総合的に評価します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行います。				

	・レポート課題は授業内又は掲示板（ポータルサイト含む）で指示します。
オフィスアワー	火曜日～木曜日の第4時限の時間帯 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	ミクロ経済学は、マクロ経済学も含めたすべての経済学分野の土台となる学問領域です。理論を学ぶと無味乾燥だった数学や数式の価値がわかり、興味が湧いてきます。是非、実践的に役立つように習得してください。